

一般社団法人 ひかりプロジェクト「HPA」発足！



HPA事務所(山梨県河口湖町・標高840m)から望む 世界文化遺産・富士山(3,776m)の北麓 (2016年12月20日撮影)



少しでもお役に立てるよう活動を進めていきたいと思います。
なお、12月15日に、ホームページを開設いたしましたので、ぜひご覧ください。
また、フェイスブックからの投稿も受け付けておりますので、ご利用ください。

東日本大震災から五年。私たちの活動も、自主団体としての活動から、もう少し「公共性」や「透明性」があり、社会的に認められる組織に支えようということになり、「一般社団法人ひかりプロジェクト」として、法人化したしました。(2016年6月13日)
設立会員には60名の方々にご参加いただき、2017年度からは、下記の事業計画に基づき、活動を進めていく予定です。

2016年は、4月の熊本地震、夏の台風、12月の糸魚川火災と、災害の多い一年でしたが、被災者の皆様に

共に生き、共に助け合う社会の実現を

HPAの目的と2017年度の主な事業計画 (HIKARI Project Association)

この法人は、世界の平和と人々が共に助け合う社会の実現に寄与することを目的に生まれました。
そのために、次のような5つの事業を行うことを目指しております。

1. 国内外の大規模自然災害時の災害救援支援事業

- (1) 気仙沼での支援活動
金光ボランティア会に協力して、現地での活動に取り組む。
- (2) 熊本での支援活動
九州地域のボランティアと協力し、定期的な支援活動を行う。
3月末に現地で、炊き出し、あるいは餅つきを企画・実行する。
- (3) 災害救援活動のマニュアル作成
阪神、新潟、東日本、熊本の震災被災者支援の経験から、時間とともに変わる取り組み、支援内容について、ハード・ソフト面を含めマニュアルを作成する。
- (4) 見守り活動への取り組み
この取り組みの意義を広く知らしめると共に、気仙沼、熊本で取り組む。

2. 地球環境維持のための事業

- (1) 自然環境保護に関する活動を調査し、個人・グループで取り組める活動を紹介する。

3. 社会的弱者へのサポート事業

- (1) こどもの居場所確保の取り組みを研究する。
- (2) 「こども食堂」開催の準備をすすめる。(気仙沼で準備中)

4. 青少年育成活動への支援事業

- (1) 第6回ドリームキャンプ(2017年7月)の開催支援
活動の成果を集約し、今後に役立てることも検討する。
- (2) 「地球環境維持活動の取り組み」「社会的弱者への取り組み」を、青少年育成活動へ展開する。
- (3) 気仙沼での地域青少年育成活動に取り組む。
年数回の集会を開催できるよう、金光ボランティア会と協力して企画運営する。

5. 広報活動

- (1) ひかり新聞発行(年4回)
- (2) ホームページの運営・管理
タイムリーな更新、取り組み内容の広報を行う。

シンボルマークは、デザイナー・奥原しんごさん作です。フクロウが枝にとまる芋虫の絵に耳を傾けている姿をイメージしています。



これまでの歩み

理事長 藤原真久

2011年3月11日、東日本大震災が起こりました。そしてそれに伴う大津波、さらには福島第一原発の事故。それをきっかけに、さ

さやかでも何かしたい、被害に遭われた方々のために少しでもお役に立ちたい、多くの方がそう思って取り組まれたと思います。

私たちのグループも何かお役に立ちたいと思、「ひかりプロジェクト」として、次のような取り組みを始めました。

2011年4月にまず『ひかり新聞』を発行し、気仙沼をはじめ現地の様子を、素人ですが感じたまま、見たままを伝えることから始めました。他の団体やグループに協力して、ボランティア活動に参加したり、被災地の仮設住宅で

窮屈な思いをしている子どもたちに、せめて3日間だけでも自然の中でのびのびと遊んでもらおうと、2012年7月よりドリームキャンプ開催の支援をしてきました。そして今年第5回目を迎えました。これまでの参加延べ人数は576名になります。『ひかり新聞』も今号で29号を数えました。

また、震災による津波や原発事故の影響を受けた現地に行き、まずこの目で見て、感じようと呼びかけて、「ひかりツアー」も開催してきました。

さらに「ひかり募金」として呼びかけた取り組みにも、多くの方にご賛同頂き、その浄財で被災地への物資の支援、先に述べた様々な取り組みの資金とさせて頂いていただきました。

私たちメンバーは、この取り組みを発展させたいと願ってききました。そして、その願いが実り、東日本大震災から5年を迎えた今、ここに「一般社団法人ひかりプロジェクト」が発足することとなりました。

そんな大それたことは考えていません。「目的」となると「事業計画」にもありますように、人として極めて当たり前の、そして最も大切なことを、ささやかでも取り組んでいきたい。そのように願っております。

一般社団法人 ひかりプロジェクト

<事務局所在地> 〒401-0304 山梨県南都留郡富士河口湖町河口1975
TEL. 0555-72-8191 FAX. 0555-76-6696
http://hikari-project.jimdo.com/ E-mail: hpa@road.ocn.ne.jp

<取引銀行>
★ゆうちょ銀行 記号 10890 番号 16718311 名義 一般社団法人 ひかりプロジェクト
★郵便振替 記号番号 00210-2-137823

気仙沼紫市場五周年

12月23日

2016年12月23日(金)、南町紫市場が5周年記念イベントを行いました。金光ボランティアも、餅つき振舞いで5臼200食を提供し、私たちもお手伝いさせていただきました。

2017年4月には本設の商店街が完成予定のため、今回が最後の周年イベントとなります。

当日は250から300名の老若男女の来場があり、とてもにぎやかで盛り上がりました。

思えば5年前、瓦礫の中にあつたこの場所を、復興の狼煙として仮設商店街を創るといふ構想のもと、住民の元氣、商店街の再開を願い、南町の方々と手作業での瓦礫処理や整理等のお手伝い、開設後も各種の継続的支援をさせていただきました。

開設当初「仮設商店街はあくまでも通過点、本設の商店街が完成してから本当の復興が見える」というある理事の言葉が思い出されます。

「5周年、よくぞここまで、どうぞこれから」という思いで、今回支援活動をさせていただきました。

そして、いよいよ2017年春には本設商店街のオープン予定です。まだまだ課題や困難なことはありますが、一つひとつ一歩一歩着実に、商店街、町、地域の復興を目指し、現地の方々に寄り添い、共に歩ませていただきたいと思います。

(大江 靖)



地元の方々が代わる代わる杵を握り、餅つきに参加

東京から
板東諭史さん、伊藤智子さん
南保邦亮さん、大江 靖さん
名古屋から
井上 智さん
5名が駆けつけました。



4月に完成予定の気仙沼内湾
南町地区災害公営住宅

1階～3階：紫市場商店街
(本設)

4階～6階：災害公営住宅

<ドローンによる空撮>

ドローンを操作する板東諭史さんの周りには興味津々の子供たち



熊本地震から8ヵ月



↑ 益城町の様子(10月18日撮影)
→ 更地になった山西教会の旧会堂跡

10月18・19日、熊本県の益城町を訪れて、木山教会・山西教会・高千穂教会に、ひかり募金より支援物資のお米(300kg)をお届けしました。

それぞれの教会長ご夫妻にお話を伺いましたが、大変な状況にもかかわらず、みなさん笑顔で対応して下さい、しかもその表情には人を引き付けるものを感じました。お見舞いのつもりで支援物資を持っていきましたが、私の方が元気を頂きました。

ただ、教会付近の状態は、4月18日、最初に訪れた時と様子はあまり変わらず、まだ後片付けも終わっていない状況です。復興にはかなり時間がかかりそうです。これからは、継続的に被災地を訪れて支援活動をさせていただかねばと、強く思いました。

物資だけではなく、心が元気になってもらえるような支援活動が必要です。また「共念」一共に祈り合い、念じ合うことが大切ではないでしょうか。

福岡に、定期的に被災地を訪問して支援活動をされている方がおられます。その方と、1月15・16日、熊本にて、理事長・藤原真久さんと共に会って、今後の支援活動について話し合う予定です。

今後とも支援活動にご協力をお願いいたします。
(清水 幹生)



地震直後の木山教会正面玄関と側面



すっかり片付いた教会跡地(10月)



木山教会で唯一残った金光会館